

愛犬を通して見えた犬を飼うことの意義

犬は、ペットとして人々に幅広く認知されており、身近な生き物であるため、犬をあまり深く考えずに飼う人が多いのではないかと考える。筆者が愛犬を飼う中で、想像していた犬の認識とはズレが生じることがあった。愛犬は、恐怖心が強く、育てることの難しさに直面した。これは筆者の実体験であり、一例にすぎないがこのように誰しもが犬を飼う決心をし、飼ってから直面する問題があると推測する。

問題に直面したとはいえ、犬を手放してはならない。犬を最後まで責任をもって飼うにはどのようにすべきかという疑問が生まれた。この疑問を明らかにすべく、まず、犬と人間はどのように暮らすようになったのかを明らかにし、犬の役割について考察した。次に犬のお世話と飼い主が持つべき自覚について明らかにし、その後でペット先進国であるドイツの事例を示し、日本の現状を検討し、犬と人間が最後まで暮らすための方法について考察した。そして、犬を最後まで飼うためには、犬はモノではなく1つの命であり、犬にも一定の教育を受けさせる社会体制の確立や犬の社会化を飼い主、ペット事業者の共通認識として徹底していくことが求められるという結論に至った。

今一度、犬を飼う意義について見つめなおす必要性があると考えます。